

価値提供の

思

中小企業の生存戦略

考

第2回 SDGsの利活用①

の時点で未然に検知し、対応を図りたい。

では、具体的にどうするべきか。方法の一つに

現在の環境変化の可能性を示す指針であるSDG

Sの活用がある。SDG Sは、世界

「変化の潮流」だ。すなわち、今だけでなく将来の世代まで考えた取り

組みであり、多くの共感

が必要といえる。をコストと経済・社会的

SDG S上で、CSR（企業の社

動と切り離されている「し

とが多く、大企業が実現

にSDGsを持ち出した

あり、無理にPRしたりす

での課題を解決する製品

やサービスの実現だ。社

会や消費者の共感を得ら

期間が長い。既存事業や

が最上の効果であり、研

究開発の課題抽出でも有

効な手段の一つといえ

また、SDGsを検討

環境変化を示す指標

中小企業に生きるSDGs

○：経営戦略は一言で表現すると「環境変化に対する適応パターン」である。製品やサービスのライフサイクルが短命化する中、一つの企業が特

定事業で競争優位性を持つことができる期間はそう長くはない。しかし、抽象的な環境変化を肌身でとらえることは難しく、直接的な解決するための持続可能な取り組み

で起こっているさまざまな問題を解決するための持続可能な取り組み

に感知したときには、すでに危機を

迎えている

が2030年までに達成

としたCSV（共通価値

の実現）という考え方が

活動である。

しかし、中小企業にお

いても取り組みやすい

「今すでにでも取り組み

共感を得ることができな

効な手段である。あくま

「強みを持つ価値提供

ができないということ

だ。

に危機を迎えている

が2030年までに達成

としたCSV（共通価値

の実現）という考え方が

活動である。しかし、中小企業にお

いても取り組みやすい

「今すでにでも取り組み

共感を得ることができな

効な手段である。あくま



三枝国際特許事務所

中小企業
診断士

柚木 正人氏

GSその最も効果的なSDGsの活用方法は、将来世代

次回（4月27日掲載予定）は、SDGsが掲げる具体的な目標とブランディングについて触れる